

Title	巻頭のことば
Author(s)	小倉, 義明
Citation	キリスト教と諸学 : 論集, Volume20, 2005.3 : 1-2
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3220
Rights	

SERVE

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

巻頭のことば

本論集は、聖学院キリスト教センター〔前・聖学院大学宗教センター〕所管の「キリスト教と諸学の会」の果実であり、本号をもって第二〇号を迎えた。「キリスト教と諸学の会」は、女子聖学院短期大学の時代（一九七八年）に始まり、聖学院大学に引き継がれ、こんにち充実した活動を展開していることは慶びに堪えない。

*

「キリスト教と諸学の会」の理念とするところ、従つて、本論集の刊行の主旨について、若干のことを述べてみたい。この理念は、キリスト教大学として本学が掲げる「聖学院大学の理念」と軌を一にしている。謂わば、大学の理念の具体化の一例が、この「キリスト教と諸学の会」なのである。それはキリスト教文化諸価値が学問諸分野と出会う場であり、その交わりの場である。別言すれば、〈聖〉なるものへの畏敬を共通精神としながら、諸学が活発で多様な活動をする——そのことをもつて大学の生命と使命にしよう、とする試みである。

*

大学は、ユニヴァーシティの語が示すように、本来、一体的な教育研究の共同体であつた。けれども、こんにちのように大学が巨大化し学問分野が専門化してゆく一方の時代では、大学はともて一体的であることはできず、ユニヴァーシティではなくティ・ヴァーシティの様相を呈している。マルチ・ヴァーシティとさえ言われるほどだ。

多様性と一体性、あるいは個と全体の問題は、本質的に人間共同体の課題である。それは、デモクラシーの課題

であり、政治や倫理の課題である。

*

本学院の大木英夫理事長・院長は、ある時こう言われた、「聖学院共同体は個を大切にする。譬えて言えば、お餅をつくのではなく、おむすびをむすぶ」と。つまり、個性をつぶすのではなく、個性を残しつつ生かしつつ、しかも一体化していく、という含蓄であろう。これは理想であるが、困難な課題だ。政治や倫理の課題でありつつ、その可能根拠を求めて宗教的次元にまで深まることが要請されるであろう。本論集の収載する各論敵は、そうした困難だが、崇高な課題と取り組んでいるのである。

聖学院キリスト教センター所長 小倉義明